

215
2057
32

準
貴

UNIVERSITY
21
LIBRARY

突と志

二人の人、義とこの人、いちうをよむ
 としやまがのまうとていふと海と人
 のまらんとていふとらうとらうとていふと
 おたり かりそあうとていふとらうとていふと
 思ひあうとていふとて二人の人、いづく
 ちらきまこ下野上野あふかたきひさち下
 うひ信濃のまは乃まへうらあえちぬとて初
 せううの人、いづれとていふとらうとていふと
 あゆくるをそおよげりうとていふとらうとていふと
 あまより中へ越りて後河のまへへと

りよ信守とて日中乃花のまやこる月れり
 乃大あうとていふとあつたまうとていふと
 うら新来たりとていふとていふとていふと
 まうとていふとていふとていふとていふと
 乃りていふとていふとていふとていふと
 とひとめみだるとていふとていふとていふと
 まうとていふとていふとていふとていふと
 ひあくなりりていふとていふとていふと
 らう乃信とていふとていふとていふと
 とあうとていふとていふとていふと

ありあひこまよあけいあこまこ海をわくわ
 けりうなるくも井れい縁をとらくことうら
 かりめけこひさうふあわわい海くこら
 見えこせは ありこまこまよあけい
 わくあまこ一のうまらくわ津文寺れま
 うせハ軍よあん乃差やままこらんあ
 む縁とかなん所くたこの煮家^{かき}そのまは
 厚月七うふはのらのか守の上八面余もん
 ありゆい乃ままう大とりけりつこり
 みりひい海ハ名あ一あふくろ名所あま



らん乃流石とまんるりーひーひきよそ
 立られきり流石大名のさのうまらるる日東約言
 乃まんせうふゆーうりけりぬらとやう
 かなあまきわりのまを判敷とやうふり川さ
 中さそと押りんまいけさ清きとかなもいんが
 あくごらりるり その敷を若文後ふ系録中
 衆とすうきんぜあんなんはせせんあよと
 きせしーさーさよーめりうーけの志とれ
 青あくまのらんまのどとおもひあけをまは
 まひぬきとさおつけつそげむりどさく音お

まく切てせ川めそはまーきらうるまきりあ
 り梅系乃源太^たうげすゑい海記とりうりあ
 海りーの河申よそむいどとゆきあふたり目比
 みくえー事そーあやあめられあーかり
 るんとぞんずまは^さとあふけ清きとさ
 わ^い拵まそと細りきりうんのまのめれあう
 さのなうひの風うーもととふてま
 まよと^いけりまらきり かなを流石んと吹
 切く せとんは^いくうとらあら^い浮川志
 清き代かうまらり清きあま城とてさう海記



へふらられてありありとそんはまは
 まらけ乃さうのそそとさうとがさひて
 とをふてそそをきららほえ二ほえ三ほえ
 めてあてあてなるほえひておれりうう
 どうら^さほくさうぬ^さ辨^さまそと^さ理り^さきら



そのぢら大ぢいよついでまをひのあーあ
 ゆひはゆふつにやぐハすりりそのぢく
 里すらまをわいてまのりやうみさーりまー大
 とんあけくおのる屋うりふさこくくう見
 とうあつらつらわをりらうらまんとこの
 作らちのさあひ駿河^{すまがは}はる清元と申者ゆくは
 うきまのほまよちうひやおくまはりこころま
 まつりせしにちまうのゆまをひらうあ山依
 のまらういよま海とう人流玉一見まらりりーが
 うんうつきて源をみあひぬまたらうあー

しまよよとひくそれうー判書あ北内よあ
るーるんとのらんどう致すべしきあてを
しうう田圃丸玉のたうひりーも後河吹う
梅うまひ致してせゆとせありはるんそこと
ひくさとりふまふ大せいのもさうへまうて
入まうか次節りありさ海とせのよらうく
たよまいたまうふくせよう建義致ちるー
小きふぞ小書一しうあらあもせだあこ
なりしういとしきえううさわまふらうり
はうの致二十七孫さうりあせ大勢よとせ

せ東あへまうとをらちるーううまうその
能ぐいのやうと見たるー人源太といふまうみ
うら乃志申をら致さるー十文字よりき切く
三十八とせあうせ海りて河さうら後河
吹うまうあげをわめぬ人ーそなりりきれ



さうらひのひと源太八郎おあまうこころをきき
 まよあけり首級とりあめあまふらあ
 てつそま頼朝乃ゆめよううら頼朝ゆえして
 ぶひのうらうどう乃らびあけゆいれま
 ふうげよとそまよのかうあそけられま
 さうらひのひと源太八郎の下れあゆくま
 屋くそく乃月う守城いふまそまをそり
 まりあまのむさうをそんままは海にさら
 りそみちゆさ人あま同をわと思ひまわら
 こころあそりてよまうらうとまうらうらみ二人

のありへまわて入そこましく人坂りりかー戎
 身えさうしとさり終ふらひとほとめく鎌倉へ
 のりせられてはそ山うーとそそとつゆりまら



しりりりあまきとまていざうりそまきりーの
とくめはららどめらるのすー撫さういおしあり
きつそやつくとやてそまきりーの興がへつりり
くくうあうむりりぞりり判友もほあは
おそく母がまもんとそものぐまねあきうか
乃日けはひふふせいそて興が列りくくうりえ
よりあやとそめまけなむくひとぬいひ
作乃下とそおふきりそよりそよしりりる
物まらうき大名小名よ法判おりまませすく
おまゐるそのありきりたそりまてさの事

ちりよは城び中委れり乃ゆくとまてういあけ
よりゆりいさうねていあてと城び日きり番だは
はまの毛城びておぬんよと城びりやまがーい
やうまてく是ゆりなりよと城びぬりまていそ一
なふらうまておりまてうりよーきりあのりー
らうよまてそまてやまがー乃なひあくこら孫
海り城びすう時いこの義城びあま本れ根城び抗まは
はらまうりよらとまてむりよまてまうりやねまう
お羽で乃まてくらのやまがーりらま飛のへ系りい
あまてくら乃はまの毛城びゆゆの山りーれ

びらなち
 ともうもてもあはれきりこいどわうきう人
 とていりぬりうきりきりあううらてのき
 ぶひらきりてきあきりあんのゆれし
 びらなち



はん乃ほまのあれ城にて一変りしつとまう
 ひくごうをよめて内方よりいらいと城の終り
 そとまんをうよらりこじらよーありびよー
 ころころをなひもひまのあーさまはら
 しくいふも厚くをひのあーすーゆひはら
 ころ一尺八寸乃うらうさふすらつとぬりて
 まつ切うすーさーさー大掛んわけく名宗
 やうのふささくう見とらめころる及理也
 判及後乃内肉のさあひひせれ三郎よりゆり
 介りたト一浦^{くうり}のどんれそのあをぬうと現

さこめえのそこをひくささくまうよ大勢
 のなうへくつてらりあーひーさささあみ
 くもてあくあも十文字厚くさあささ
 そのよまりだてをんまらーしてらんく小
 切たりたりまゆとよすむほをそのと十七
 八^三騎まらあせ大勢おまをあせ東あへら
 とをらちさーかこおのまんあつをらと
 まう十文字おあささささ十とてうれ
 ころころりりうん中一城^さ綾^せ上下をさるへ

清ま

うんせぬんそさうのきり

